

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070103399		
法人名	株式会社 はるす		
事業所名	グループホームはるすのお家和歌山(しおさいユニット)		
所在地	和歌山県和歌山市福島486-1		
自己評価作成日	令和3年5月13日	評価結果市町村受理日	令和3年9月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jikyoosyoCd=3070103399-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県社会福祉士会
所在地	和歌山市手平2丁目1-2 和歌山ビッグ愛6階
訪問調査日	令和3年7月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居様が今まで過ごされていた環境や生活状況を伺い、可能な限り活動の時間を合わせていただいています。施設ではありますが、名前の通りお家にいるをモットーに気兼ねなく過ごせる場所の提供を心がけています。

また、従業者の年齢層も幅広く在籍しており、入居者に合わせて適切なケアや対応を行っていただいていると思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム全体を通じて働くスタッフが、「ここで勤めていて楽しい」、「しっかりと休みが取れている」、「職員全員が仲が良い」と口を揃えるなど、大変働きやすい職場であるということが確認された。入居への呼称については、「〇〇ちゃん」を徹底的に廃し、姓に「さん」をつけて呼び出す(女性の場合は名の方に「さん」をつける場合もある)など、入居者の人格を尊重した対応がなされている。入居者の日々の楽しみにつながるよう、レクリエーションにも工夫を凝らされており、工作物、塗り絵、切り絵などの季節に応じた作品の制作が入居者の特性に合わせて無理なく行われている。入居者自身が気にしている糖尿病への対応として運動(歩行訓練)の機会の確保を図るなど、入居者個々の要望や状態に応じたきめ細やかな個別的ケアが実施されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットで理念を作成し、ユニット内に掲示し、管理者・職員で理念を共有し実践に繋げている。	「地域や家族様との結びつきを大切にし、寄り添い共生し、その人らしく笑顔で安心した生活を送れるお手伝いをします」といった理念が掲げられている。今後は入居者を巻き込んだ理念の更新が予定されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年までは回覧板を渡しにいたり、溝掃除や毎日の近隣の掃除、ボランティアの来訪等を行っていたが、コロナ禍もあり今年度は行えていない。	コロナ禍によって以前はできていた回覧板の往来や、傾聴・懐メロの演奏・腹話術・手品等のボランティアの受け入れ等の地域とのつながりが途切れてしまっている。コロナ終息後の具体的な予定が立たないでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との交流については挨拶や世間話をする間柄ではあるが、認知症についての相談や地域の方への発信は行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在コロナ禍という事もあり、運営推進会議は文書開催となっているが、そこで要望があった際には内容を検討し、サービスに繋ぎ込ませていただいている。	運営推進会議は2か月に一度、文書をもって開催されている。家族からは意見が返ってくることもあり、運営の参考にされている。今後は地域包括支援センターや民生委員等への文書発出も予定されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事務所で解決できない事は市町村や包括支援センターへ相談させてもらっている。	ユニットにおける短期入所サービスの開始の際等は、保険者である和歌山市に人員配置等の法令上の詳細を確認して、コンプライアンス重視に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回虐待防止・身体拘束廃止・権利擁護研修を行っている、その際に意見を出し合いその件が拘束に当たるか当たらないか話し合っている。	年に4回もの虐待防止及び権利擁護・身体拘束廃止の委員会が開催され、年に2回、職員向けの研修会が実施されている。今後は外部講師の招へいや外部研修への職員の派遣などが予定されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について内部研修でスタッフ全員に説明し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の入居者様が成年後見制度を行い理解納得の上で契約させて頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に本人様、家族様と面談を行い理解、納得の上で契約させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で相談できる場を作っていたが、コロナ禍もあり、運営推進会議が文書開催になっている事もあり、外部者へ表しにくくなっている。要望や相談があった際は次の運営推進会議の際に内容についての回答等を掲載させて頂いている。	運営推進会議は2か月に一度、文書をもって開催されている。27名中14名の家族から意見が返ってきており、運営の参考にされている。入居者自身からの意見や要望はスタッフが日常的に収集するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の契約更新の際に要望や提案を聞ける機会を設けている。また、毎月のミーティングや相談をしてもらえる環境づくりをして、何かあればその都度相談に乗っている。	スタッフは皆、「ここで働いて楽しい」、「皆仲が良い」と言い、素晴らしい職場環境であり、管理者以下の職員全員の努力が見て取れる。無資格者もいるが資格取得に向けて、前向きな姿勢も確認された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1度の人事考課の際に面談を行い、希望や問題点について話し合える機会を設けている。その際に翌年の目標の設定等、自己研鑽をできる様に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に1度の人事考課の際に面談を行い、希望や問題点について話し合える機会を設けている。その際に自己評価をしてもらい、不足していると思う事を抽出したり、研修への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年までは、外部研修や他社の勉強会に参加できていたが、コロナ禍という事もあり、現在は控えていただいている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居までに面談を行い不安な事などがある場合は説明等させて頂き信頼関係を築くように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前後にも家族様の不安、要望について話し合い、サービスの向上を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様や家族様また医療機関と話し合い求められているサービスを行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ユニット内で洗濯物量みや居室の掃除等の家事を一緒に行って頂いており、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なにかあった際は家族様へ連絡相談して決定している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住まれていた近所の方と連絡を取ったりコロナ禍は面会に来て頂いた事はあるが、こちらから行っている事はない。	入居者自身の兄弟が営む喫茶店に行く、以前から懇意の美容室に行く、墓参りに行くなどがあったが、コロナ禍で途切れてしまっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者様同士が過ごせるような環境作りを工夫し関わり合い支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も希望があれば出来る限りのサポート・フォローをさせて頂く様心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生活パターンや食事時間等、御自身の希望、意向に沿えるよう努めている。	食事や入浴などの時間は出来るだけ入居者の意に沿えるよう工夫している。食事に関して「思った通りにしたい」という入居者に対して、家族からの差し入れが主な食事内容になっているなど、管理的でないグループホーム独自のスタイルが輝いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や環境については面談できる限り聞かせて頂いている、入居前に		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活パターンを把握し個々の残存能力に応じて家事等を手伝って頂いてている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニット内でケアカンファレンスをしケアプランについて話し合い反映している、方針の変更の際はプラン、モニタリングを家族様に送付し、理解して頂いている。	入居者ごとの個別日誌にケアプランの短期目標が記されており、目標の達成状況の確認欄まで設けられている。ケアプランを念頭においた取り組みであり、他のグループホームでは見られない画期的な工夫である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランと記録に番号をふり結果を次回のケアプランの作成の際に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状況の変化により必要な事があれば対応させて頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で行えていないが、以前はボランティアに来て頂いていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のない方はこちらで連携している医療機関で受けていただいているが希望がある方には馴染みのある医療機関で受けて頂いている。	ほとんどの入居者が提携先の医療機関で受診しているが、必要に応じて家族の支援を受けながら脳外科や精神科の受診も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の状態の変化等あれば連携している訪問看護師へ相談して対応させて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供を行い退院時期についてもカンファレンスを行い早期の退院が出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要な時期になれば家族様と話し合いターミナルケアについて説明し医師、看護師と相談し支援に取り組んでいる。	今年4月から3件ものターミナル対応がなされており、非常に質の高いターミナルケアが行われている。他の入居者の混乱を招くこともなく、職員も粛々とターミナルへの対応ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	経験の浅いスタッフも多く全ての職員が応急手当や初期対応を行える状態ではないがAEDの設置もあり定期的な訓練を行い、少しでも早く対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回各種災害を想定した避難訓練と、内部研修を行っている。人員の少なくなる夜間を想定した訓練も行っており、各ユニットで連携を取れるようにしている。地域との協力体制については今の所なにも行えていない。	水害や地震に対応した訓練が年に2回実施されている。今後は実施記録の作成が予定されている。地域との協力体制の構築が課題であるが、地域特性も相まって現状では模索中である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフはプライバシー保護の説明をし徹底している、プライバシーを損ねるような場面等が見られた場合は都度説明しスタッフに指導している。	スタッフがトイレの扉を開けたまま排泄介助を行っているような場合は、互いに注意し合っている。入居者への呼称については表紙に記載した通りである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴の意思や衣類の決定等ご自身で選んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り自分本位の生活ができるよう支援し過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様毎に好みやおしゃれについて把握できるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備を行う事は難しいが一緒に片付けが出来そうな入居者様には声かけし気分の良い日は時々手伝って頂いている。	昼食及び夕食に関しては、最近冷凍食品を購入し湯煎して提供するスタイルに変更した。スタッフの効率化が図られ、入居者の栄養の偏りがなくなり便秘が解消するなど、現在のところ高評価となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェック表に記入し不足している様であれば主治医や家族様と家族様と相談し十分摂取して頂けるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを促し、ご自身では困難な方へはこちらで支援させて頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ定期的な声かけを行い出来るだけ自己にて排泄が出来る様支援している。	自立している入居者が30%、全介助者が30%とのことで、入居者の重度化に伴い排泄のADLの低下も見られている。女性入居者で男性スタッフの介助を拒む場合は、その要望に応じるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表をつけており水分を多く取って頂いたり散歩をして頂くなど出来るだけ便秘にならない様心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけご自身の希望にそった時間や間隔で入って頂けるように支援しているが決定できない方にはこちらで調整させて頂く事もある	入浴を嫌がる入居者もあるが、医師や家族から進言してもらい、何とか入浴が実現している。ゆず湯など、季節に応じた工夫や入浴剤の使用で入居者に楽しく入浴してもらえるよう工夫されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢的に高齢の方が多いため夜間のみでなく必要な方には午後に休息を取って頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師と連携し薬の目的や副作用について把握している。変化がある際も相談し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔からされていた趣味等生活歴から確認し出来るだけ昔と変わらない生活を送って頂ける様支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で現在行えていませんが以前は天候の良い日は散歩や買い物に行ったり外出が出来る支援を行っていた。	敷地内では自由に歩行等が出来るように工夫されている。以前は畑を作っていたが、作った入居者に収穫物を食べられてしまい、それからの取り組みはなされていない。	敷地内に入る門扉が二か所あるが、目立つワイヤー錠で施錠されている。防犯上致し方ないのであるが、近隣のイメージをより良いものにするために、目立たないソフトな施錠とされるよう期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で金銭管理出来る方にはして頂いており買い物後にご自身で払って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様が希望される際には電話をかけさせて頂く支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の空調や音量に注意し過ごしやすい環境作りに努めている掲示物など季節感のある物にしている。	エアコンの温度調整(換気もかねて窓を開放してエアコンをかけることも)、テレビの音量等、入居者個々の感じ方の違いに配慮しながら、共用空間作りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースが数か所ありソファや和室等独り又は数人で過ごせるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご自宅で使用していた馴染みの物を持ってきて頂き居心地よく過ごせる空間作りを心がけている	入居前の馴染みのものを持参してもらおうと、家族らには働きかけるが、多くの場合新品が用意されてしまう。居室内に誕生日カードを飾るなどの工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所に張り紙をし分かりわたりやすく出来るだけ自立した生活を送って頂けるように努めます		